

ミステリ読書案内

2019. 12. 8 発行元

第8号 伊藤 剛

ジョルジュ・シムノンベスト表

外国人作家「ベスト表」の2人目はジョルジュ・シムノン。ベルギー生まれのフランス人作家。「メグレ警視シリーズ」の生みの親と言った方が通りがよいかもしれない。日本人作家に与えた影響は大きいと思う。

《ジョルジュ・シムノンベスト表》

1. 男の首
2. 黄色い犬
3. メグレと殺人者たち
4. モンマルトルのメグレ
5. メグレと運河の殺人
6. メグレと口の固い証人
7. 怪盗レトン
8. ゲー・ムーランの踊り子
9. 霧の港のメグレ
10. メグレと宝石泥棒
11. メグレと深夜の十字路
12. メグレの途中下車
13. サン・フォリアン寺院の首吊人
14. メグレと火曜の朝の訪問者
15. 三文酒場
16. メグレと幽霊
17. メグレ氏ニューヨークへ行く
18. メグレと若い女の死
19. メグレと首なし死体
20. メグレ夫人と公園の女
21. 港の酒場で
22. メグレと優雅な泥棒
23. メグレと死体刑事
24. メグレと死者の影
25. メグレの初捜査
26. メグレのバカンス
27. メグレと政府高官
28. メグレと生死不明の男
29. リコ兄弟
30. メグレの回想録
31. メグレと殺された容疑者
32. メグレと老婦人
33. メグレ保安官になる
34. メグレと消えた死体
35. メグレ推理を楽しむ
36. メグレの幼な友達
37. メグレ式捜査法
38. メグレを射った男
39. メグレ再出馬
40. メグレたてつく

たぶん、1970年代以降に刊行されたメグレものは全部読んでいる。河出のシリーズが中心になるが、ハヤカワポケミス、ハヤカワ文庫、創元推理文庫、読売新聞社などから出ている。メグレもの以外のクライムノベルは数冊だけ読んだ。

日本語訳は150冊くらい

ジョルジュ・シムノンは、1903年生まれで、1989年の没。多作家で知られ、生涯作品は300冊とか言われているが、メグレ警視ものは100冊ちょっと。

シムノン自身は、「純文学」の作家だと考えていたようで、メグレもの以外の作品も実はたくさんある。日本語訳で出版されたのは、そのうちの半数の150冊くらいではないだろうか。

河出書房のメグレ警視シリーズ

私が最初に読んだのは、創元推理文庫の『男の首・黄色い犬』。でも、シムノンの良さがわかるようになるまでには2~3年要した。昭和51年(1976年)から河出書房新社版の「メグレ警視シリーズ」全50巻が出版され始め、夢中になって読んだ。右の「ベスト表」に登場する作品の大部分は、このシリーズの中に入っている。

メグレの推理と言え、粘り強く事実を集めていく途中経過はある

ものの、感覚的であり、ある意味、犯人との心理戦で追い詰めていくパターンである。

論理の積み上げよりは、人物や事件を描くことに力点が置かれている。その意味で、物語作家なのだと思う。

河出書房の50巻シリーズ。ネットで見てみると、現在の古書買取価格は、高くても5000円。(50巻で5000円とは!もう少し高くてもいいような気がするのだが…) 売値の方は5万円という感じ。古書市場はそんなものようである。

長島良三氏のはたらき

日本におけるシムノンの紹介は、長島良三氏抜きには考えられない。河出書房のシリーズの仕掛人にもなっている。シムノンとメグレものの良き理解者であり、訳者としてかなりの数を手掛けている。また、シムノン作品の研究書としては、ジル・アンリの『シムノンとメグレ警視』があり、昭和55年に同じく河出書房新社から日本語訳が出版されている。

海外ミステリ

この1冊・連載4

エミール・ガボリオ『ルコック探偵』

ガボリオは、世界最初となる長編推理小説『ルルージュ事件』を書いた作家。コリンズの長編『月長石』(後日紹介します)の2年前になる。上の題に取り上げたのは『ルコック探偵』の方で1869年の作。読んでいない本を紹介するわけにはいかない。ということで『ルコック探偵』の方を掲げた。私が持っている本は1979年に発行された旺文社文庫版。今では手に入れるのは難しいか?

居酒屋で突如引き起こされた銃による殺人事件。パリ警視庁のルコック刑事による捜査。ナポレオン時代まで遡る貴族たちの歴史が解決には大きく関わってくる。何冊かあるルコック探偵ものの中で、最高傑作と言われているミステリの古典である。